



道徳授業【生命の大切さ】で蚕を観察する児童(裏館小)

## ♥ 人間関係能力の育成

児童生徒の小中学校9年間の心身の変化を考慮した連続する教育課程を実施し、いじめ・不登校などの課題の克服をめざし、自分を大切に、人を思いやる心や人とかかわる力など、たくましく生きる力をはぐくみます。

## 📖 確かな学力の定着

- 学習指導要領に基づいて、義務教育9年間を連続した教育課程として編成し、学力の向上を図ります
- 9年間を前期、中期、後期に区分し、特に中期の指導の充実を図ります



小中教員による国語の古典授業の様子(三条小)

# 子どもたちの “生き抜く力”を育てるために

### 平成21年度の主な取組実績 【モデル中学校区】

#### 小中二体校整備への活動

- 第一中学校区小中二体校整備および第二中学校区小中二体校(二ノ木戸小学校改築・整備構想案について、検討委員会、推進協議会などの検討組織にそれぞれ提案・協議を行い、事業を推進することについて確認
- 第一中学校区小中二体校整備および第二中学校区小中二体校(二ノ木戸小学校改築・整備のため、プロポーザル方式による基本設計、実施設計業者を選定

#### 小中一貫教育実践への活動

- 「目指す児童生徒像」を決定
- 小中連携活動：運動会・体育祭に協力・参加、いじめ撲滅スクール集会、あいさつ運動、ミニバス・サッカー・バスケット交流(二中学校区)
- 授業での小中連携：小学校で小中教員によるTTT授業(国語、社会、算数、理科、体育など)
- 小小合同授業(六年合同体育：三中学校区)
- 地域連携部会で今年度の取組を紹介(三中学校区)・小中合同授業(二・三中体験入学で実施)
- カリキュラム編成部会で「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」のカリキュラム作成

#### 広報・評価活動

- 交流活動についてアンケート調査
- 「小中一貫教育だより」の配布を拡大(回覧・全戸配布)
- 小三(二)に「生活アンケート」を実施(三年目)

#### 【モデル中学校区以外の中学校区】

- 各中学校区で推進協議会が発足
- 小中一貫教育先進校視察
- 目指す児童生徒像の検討

#### 【その他】

- 8月 教育講演会の開催(市民も参加)
- 小中一貫教育全国サミットで発表・展示

小中一貫教育導入までの経過は市ホームページでご覧いただけます。 <http://www.city.sanjo.niigata.jp/category00001474.html>

# 平成22年度は 小中一貫教育元年 です!

小中一貫教育推進室 ☎45-1116

## 市内全ての小中学校で 「小中一貫教育」が スタート!

いよいよ小中一貫教育が新たなステージに入ります。  
ここでは、小中一貫教育の最新の情報を  
分かりやすくお伝えします。



これから  
ますます  
広がるね!

### 平成22年度

- 全ての中学校区で小中連携授業などの試行
- 小学校教科のカリキュラム作成
- 第一中学校区および第二中学校区(一ノ木戸小学校改築)の小中二体校整備(基本設計、実施設計)

私達も協力  
しますよ!



### 平成21年度

- モデル中学校区での小中連携授業などの一部試行
- 第一中学校区および第二中学校区(一ノ木戸小学校改築)の小中二体校整備(基本設計着手)

子ども達の  
ために!



### 平成20年度

- 「最終報告」を受けて「小中一貫教育検討委員会」を設置し、小中一貫教育を具体化するための基本方針(案)を検討
- 「三条市小中一貫教育基本方針」を策定
- 教育委員会において小中一貫教育の導入を決定
- 第一中学校区と第三中学校区の8か校を「小中一貫教育モデル校」に指定

わ~い!  
わ~い!



- 新市誕生を機に「三条市教育基本方針」を策定
- 教育基本方針を受けて「教育制度等検討委員会」を設置
- 同検討委員会から小中一貫教育の導入を含む「最終報告」の答申を受ける

### 平成17・18・19年度

〈三条市の学校教育目標〉

「確かな学力、豊かな心・個性、健やかな身体をもった三条っ子」を育てるための

小 中 一

貫 教 育

9年間の学びのカリキュラム作成へ

小中一貫教育では、9年間のつながりを考えた学習指導を進めていきます。そのために、小学校では中学校の学びにつながっていくように、中学校では小学校で学んできたことをさらに発展できるように、中学校区内の小学校と中学校の先生が協力して、9年間の学習指導の計画(カリキュラム)を作成します。

いじめ・不登校の減少

三条市をはじめ最近の子どもたちの様子を見ると、小学校5年生のころからいじめや不登校の数が徐々に増えはじめ、中学校に入学すると急にその数が増える傾向があります。小中一貫教育では、日ごろから小学校と中学校の先生が連携をとり、いじめ・不登校を生まないように一人ひとりの子どもを見守っていきます。また、9年間を見通しながらよりよい人間関係が築けるように子どもを支えています。

自己有用感の高まり

「どうせぼく(わたし)なんて、だめなんだ」と、思ってしまう子どもが増えています。小学生と中学生と一緒に活動する中で、中学生が小学生から頼りにされたり、感謝されたりすることによって、自分がどれだけ大切な存在であるかということがわかります。また、地域の方々などとの交流やかかわりを通して、子どもたちは社会とのつながりを感じとることもできます。

中学校への不安軽減

中学校では、勉強、部活動、友達や先生など、新しい世界がまっています。それらに対して、子どもたちは夢や希望をもつ反面、さまざまな不安を感じています。小中一貫教育では、中学校の先生が小学生に勉強を教えたり、小学生が中学校の体育祭や部活動などに参加したりして、小学校と中学校の子どもたちや先生方の交流を計画的に行うことで、不安を取り除きます。

平成22年4月～

全中学校区  
〈連携型(施設分離型)  
小中一貫教育地区〉

9ヵ所

今ある校舎をそのまま使いながら  
小中一貫教育の取組を進めます

小中一貫教育モデル中学校区

●第一 ●第三

モデル校区以外の中学校区

●第二 ●第四 ●本成寺  
●大崎 ●大島 ●栄 ●下田

平成24年9月予定

第二中学校区で一体型(施設一体型)小中一貫教育校 開校

平成25年4月予定

第一中学校区で一体型(施設一体型)小中一貫教育校 開校

小中一貫教育 Q&A

Q 小中一貫教育が始まると、いつも小学生と中学生がいっしょに活動したり、小学校と中学校の先生がいっしょに勉強を教えたりするのですか。

A いいえ、そうではありません。連携型・併用型(施設分離型)、一体型ともに、中学校区でいっしょに活動したり、教えたりすることで教育的に効果があると思われるところでいきます。

行事では、小学生と中学生がいっしょに体育祭や音楽祭などをやっているところがあります。また、授業では、どの教科のどの内容の勉強をいっしょに教えたりといのか、小学校と中学校の先生が相談しながら行います。

平成25年4月～

〈連携型・併用型(施設分離型)  
小中一貫教育地区〉

7ヵ所

●第三 ●第四 ●本成寺  
●大崎 ●大島 ●栄 ●下田

連携型・併用型(施設分離型)の小中一貫教育の特徴

施設分離型は、既存の中学校区内の小学校と中学校の施設を利用して、子どもたちや教職員が移動して交流します。この型では、特に共通する目標や活動内容を設定し、中学校区内の教職員が協働して取り組んでいくことが大切になります。例えば、中学校区共通の学習や生活のきまりを作成するなどして、別々の小学校から中学校へ進学しても戸惑いがないよう取り組みます。



〈一体型(施設一体型)  
小中一貫教育地区〉

2ヵ所

●第一 ●第二

一体型(施設一体型)の小中一貫教育の特徴

施設一体型では、同じ敷地内で小学校1年生から中学校3年生までが共に学校生活を送ります。この型では、日常的に小学生と中学生の交流を深められるため、将来の夢やあこがれ、人に対する思いやりの気持ちを育みやすくなります。また、日ごろから小中学校の教職員が協働して指導することで児童生徒への理解が深まり、一人ひとりに応じた指導につながります。



体育祭を経験することで楽しみが増した

参加した6年生に、事前と事後にアンケート調査を行いました。参加することで意識が変わったようです。

	■ そう思う	■ どちらかといえばそう思う	■ どちらかといえばそう思わない	■ そう思わない	■ わからない
参加できることが、とても楽しんだ	35	43	4	4	14
参加できて、とても楽しかった	58	36	4	1	1
応援に、とても関心がある	28	41	14	0	17
応援は、とてもよかった	85	13	1	1	0
他の小学生と一緒に参加することがとても楽しんだ	29	44	12	3	12
一緒に参加して、とても楽しかった	45	45	4	2	4

私は、小中一貫校での道徳の指導計画作成に携わっています。小学校、中学校9年間の発達段階を踏まえ、子どもたちの心の成長をどう図ったらよいかを検討しています。その中で、「やり遂げる強い心」「思いやりの心」「きまりを守る心」の三つの心の育成を基本に計画作りを進めています。新設される学校は、大勢の児童・生徒が学び生活します。だからこそ、心の指導を通して、互いに支え合いながら、相手を思いやり、切磋琢磨しながら、たくましく生きる力を育てていけると期待しています。



南小学校教諭  
鍵田桂子さん



サッカー交流

昨年7月29日、3つの小学校の4から6年生と一中1・2年生のサッカー部員がサッカー交流を行いました。約100人の児童生徒が合同練習とフットサルのミニゲームを通して交流を深めました。また、今年1月にはバスケットの交流試合も行いました。

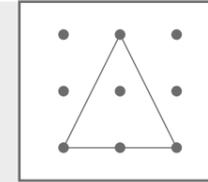
一中の英語教諭が3つの小学校で授業

昨年10月5日、一中の英語教諭が各小学校に出かけ、6年生の英語活動を担任と二人で教えました。内容は「道案内をしよう」で、活気のある授業となりました。

6年生の各学級で同じ授業

第一中学校の小林敏彦教諭は、算数で中をつなぐ授業を、3つの小学校で行いました。

図のようなジオボード(板に棒を差し、輪ゴムをかけて図形をつくる用具)を使った授業に6年生は目を輝かせている。いろいろな図形を作り、面積を求め、規則性を考えました。「中学校へつながる学習ができてとてもよかった」という感想がありました。



教職員研修会

第一中学校区の職員研修会を「共に磨き合い高め合う研修会」と名づけ、平成21年度は3回実施しました。小中の教員が共同で指導案を作成し、授業について協議を行い、小中の授業の進め方の違いなどが話題になりました。回を重ねるにつれて小中間の理解が深まりました。



第一中学校区は近い将来、小中一体型の校舎になります。小中の子どもたちが一緒にいるようになったことを常にイメージしながら、実践を進めています。

第一中学校区

四日町小・桑南小・南小・第一中

特別支援教育部会では、めざす子ども像を「一人一人の違いを認め合い、互いに配慮しながら自分の持てる力を高めようとする児童・生徒」と設定し、二つの活動を行いました。一つめは、特別支援学級の学習を参観し合い小学校と中学校のカリキュラムなどの情報交換と、二つめは、「通常学級のルール作り」について、第三中学校区の教職員に特別支援教育の話題提供を行いました。これらの活動を通して小中それぞれの実態把握や特別支援教育の理解がより進みました。



三条小学校教諭  
小林勝文さん

出前授業

第三中学校の教員が校区の小学校に出かけて、小学校の学級担任とTT(チーム・ティーチング)授業を行いました。中学校教員の専門性と小学校教員のきめ細かい指導がうまく機能し、6年生にとって得ることの多い授業となりました。その結果、6年生が中学校教員の指導や中学校進学に対する6年生の不安が大きく減少しました。

小中合同授業

今年2月に、6年生と三中1年生が6教室に分かれて班を作り、ゲームに取り組みました。班員が一人ずつ順番に見た図形を言葉だけで伝え、班員が協力しながら図形を再現するというものです。初めての小学生と中学生が混合する班でしたが、和気あいあいと話合いが進み、正解すると大きな拍手がどの教室からも聞こえてきました。



第三中学校の運動会

昨年9月5日、3つの小学校6年生が第三中学校の運動会に参加しました。当日だけでなく、練習にも参加し、三中1年生とリレー・大玉送り・綱引き・フォークダンスに挑戦しました。中学生の運動会にかけた熱い思いに、あこがれの気持ちを持ち、中学生になったら自分もがんばりたいという気持ちを持った児童が多くなりました。

古典授業

国語の古典授業は、新学習指導要領により平成23年度から小学校の授業に取り入れられる分野ですが、その授業を先取りして行いました。5年生で「俳句」を、6年生で「枕草子」の授業に挑戦しました。「私の秋」を俳句で表現したり、枕草子が千年以上も読み継がれている理由を考えるなど、非常に密度の高い授業となりました。

第三中学校区は近い将来、市内七つの中学校区で行われる連携型の交流を模索してきました。

第三中学校区

三条小・裏館小・上林小・第三中

二つのモデル中学校区の実践から

栗林●移動の問題もあるのですが、それ以外のことは小中で取り組んでい

者の方からの反応は何かありましたか？  
全員●うん。反応はあまり…。小中で一緒に授業の回数も多くないし、その授業を観てもらった機会もなかったから…。  
司会●では、話題を戻しまして、皆さんが実践するときに困ったことや課題については何かありますか？  
佐藤●授業のことではないのですが、中学校区にある3つの小学校が三中の運動会に参加することになり、最初、小学校の親善陸上大会の前だったので小学校にとっては二石二鳥だと感じていました。ところが、チーム分けや参加競技のルール説明や移動など、目に見えないところがあって、少し大変でした。  
峯島●施設分離型(連携型)の小中一貫教育では、移動の問題がどうしても生じてきます。また、中学校は、定期テストや部活動の大会があるので、4校の授業や行事の調整や事前の打合せを、教員同士どう行っていくかが課題ですね。

峯島●お互いが慣れてきたら、メールでのやりとりだけでもできると思います。大上段に構えず、気楽に訪問し合ってください。どんな授業の参観をする。指導案を書き、腰をすえて行う授業と普段の授業との区別をつけること

る先生が限られてしまうということですね。中学校から授業に来てくれたのは、英語と数学の先生でしたし、小学校では主に高学年の先生が小中一貫教育の取組にかかわっていました。今後は、中学校はいろいろな教科で、小学校は低学年の教員も参加できる体制づくりが必要になってくると思います。  
司会●なるほど。重要な問題提起ですね…。そう言えば、三中学区では、三中の美術の先生が小学校の版画指導にも行かれたと聞きました。  
峯島●中学校の美術担当教員が、空き時間を使って上林小学校の6年生の吉田学級にお邪魔し、彫刻刀の使い方を指導を行いました。それに、体育でも行いましたよ。小中一貫教育の先進地である品川区でも、小学校教員が少し苦手な理科の実験に中学校から来てもらうという取組がありました。  
司会●今出された課題も乗り越えていけそうですね。感じですね。



# 子どもたちにも先生にも メリットがあった！

モデル中学校区の成果

モデル中学校区の先生方で成果や努力したことなどを話し合いました



第一中学校教諭 小林敬彦さん  
裏館小学校教諭 佐藤亮一さん  
糸南小学校教諭 栗林一志さん  
第三中学校教諭 峯島美佐子さん  
司会:学校教育課 指導主事 山本哲哉

司会●モデル中学校区に指定された皆さんは、たくさん取組を進めてきましたが、まずはその成果から聞かせてください。  
佐藤●私の学校では、第三中学校の数学の先生から算数の図形の授業に入ってもらいました。  
司会●子どもたちに何か変化はありましたか？  
佐藤●中学校の先生の「こわい」「厳しい」という印象が変わり、入学するのが楽しみになったと言ってくれました。  
栗林●糸南小学校の6年生も同じです。私たちも算数の小中一貫授業(複数の教員で行う授業)を行いました。「中学校の勉強への不安」が減ったことはアンケートからもわかってきました。  
峯島●私は、小学校に行くと社会科の授業をしましたが、小6の子もたちは、目をきらきらさせて聞いてくれました。授業後も「ここはどうなの?」と質問したり、「また来てね」と声をかけてくれたりしました。小学生と私たち中学校教員との距離が縮まった感じがしています。

司会●先生にとって何か変化したことはありませんか？  
峯島●小学校の先生の授業や子どもとのふれ合い方を見て、中学校で生かせる部分がある、言い換えれば中学校教員の意識改革につなげられるのではないかと思います。  
小林●小中教員が一緒に二つの授業をつくらうと集まったときにわかったことは、小学校の先生方は、「いつもすべての子どもにわかる授業をしよう」としているのだということでした。小中の授業に対する価値観の違いに気づかれました。  
栗林●第一中学校区では、平成21年度初めて、「指導案」検討会を小中教員が一緒に行いました。そこでは、中学校の先生からの興味のもたせ方や「単元」構成のあり方、授業のねらいや教科の特性といった専門的な話を聞くことができましたし、本当に刺激的でした。授業後の「協議会」も盛り上がりました。  
司会●小中協働で行った授業は、子どもにとっても、教員にとってもメリットがあることが分かりました。では、保護

【指導案】  
1時間の授業を行う際、うまく進められるように考える計画を指導案といいます。具体的には、「授業のねらい」「子どもに付けたい力」「教材」「子どもへの問いかけ(課題)」「授業の進行」「子どもの反応(発言)の予想」「黒板の書き方」「気になる子どもへのかわり」「うまくいかなかった場合・子どもの反応が出なかった場合の新たな教材や問いかけ」「授業のまとめ」などを考えます。  
【指導案検討会】  
「指導案」の検討をする会議のことです。これまでは、学校ごとに行うことがほとんどでしたが、小中一貫教育の取組が進んだ21年度は、小・中の教員が一緒になって行うことが増えています。意見を交流し合っ中で、小学校(ていねいさ・教材づくり)と中学校(専門性・ポイントを絞った指導)の良さがミックスされた授業が多くなりました。  
【単元】  
どのようなねらいや学習の順番で、何時間かけてどんな教材で教えるかをひとまとめにした学習計画を指します。通常短いもので2時間ぐらいから、長い場合は20時間ぐらいのものをつくります。  
【協議会】  
研究授業を多くの教員が参観したあとに、ねらいに合った授業だったか、教師のかかわりはどうだったかを話し合う会議のことです。厳しい意見が交わされる中で、お互いの指導力・授業力が高まっています。多くの学校では、どの教員も年に数回、授業公開をして協議会も行っています。  
【カリキュラム】  
各学年の各教科で、「いつ」、「どんなねらい」で、「どのくらいの時間」をかけて、「どんな学習」を行うかなどをまとめたものを、「カリキュラム」と呼んでいます。三糸市では今年の夏以降、教科の「モデル中学校区カリキュラム」を作りますが、中学校区独自の取組をどうまとめ発信していくかを、市内の教員と協議・検討しながら作業を進める予定です。

第一中学校区では、昨年度、算数や数学、外国語活動で相互に乗り入れ授業の実施、部活動や体育祭への参加など様々な交流活動を行いました。このような学習や交流活動を通して指導法の相互理解が進み、共に育てようとする職員の意識が確実に高まっています。また、活動を通して児童の中学校への不安が少しずつ減少してきています。今後も望ましい小中一貫教育の在り方を目指して取り組んでいきます。

第一中学校長 八幡和男さん

第三中学校区では、昨年度は小中交流事業や相互乗り入れ授業などの試みを行い、職員は「同じ中学校区の児童生徒を共に育てよう」という意識に変わりました。小学校6年生は、「中学校に進学して不安なこと」が減少傾向にあります。校長として、児童生徒の可能性を引き出す小中一貫教育を力強く進めていきます。

第三中学校長 駒沢隆司さん

